

「第3の道」へ一歩踏み出そう

修士1年 鈴木隆子

財政社会学の井手英策教授の理論に目から鱗でした。

日本の危機を救うための「第3の道」は何度か訪れた北欧の税と社会保障の仕組みとよく似ていました。こうなったらよいなと思っていましたがその根底にある民主主義や政治への信頼が育っていない日本では難しいだろうとあきらめていました。ところが先生の提唱する「第3の道」を実行できれば解決できるということがわかりました。

私は障害があってふつうの暮らしができない人の底上げサービスを30年近く作ってきましたが、もうそれだけでは解決できないところまで日本はきていたのですね。「置き去りにされた『中間層』」の不満の爆発という恐ろしい事態を気づかされました。

先日重度の脳障害のある子供を育てているカメラマンの女性にから話を聞く機会があり、相模原の事件の後、「確かに子供と外出した時のまわりの人の視線が冷たくなったと感じている」と話されていました。エレベーターに乗るときなど以前なら「どうぞお先に」と道を開けてくれていたのに、「なんでこんなところに来るの」というような視線を感じ不安になると顔を曇らせていました。自分の生活が精いっぱいゆとりがなければ弱者にだけ支援が行き税金が使われることに不満が募り弱者へのバッシングにつながることは現実でした。

生まれつき重度の障害のある子供たちは「人類進化の戦士たち」、だからどの家庭にも生まれる可能性がありどんなに障害が重くても生きる権利がある。皆で支えることが当たり前、障害のある子供を育てるのは人間だけなのだからと新人研修で伝えてきました。人間らしく生きられない社会になってしまいます。

それを回避するための「第3の道」。「生活保護だけは受けたくない。」と我慢して暮らす人達の気持ちに寄り添い「屈辱最小化」戦略をとることの大切さやすべての人を既得権者にしてお金ではなく目に見えづらいサービスを提供する手法が必要なのだと良くわかりました。

先生の理論を学び始めた政治家もいらっしゃるということで少しずつ政策に取り入れられているようですが先生としてはどんな方法で何年計画で第3の道の実現を考えていらっしゃいますか？

私ができることは何か？まず、先生の著書を読みたいと思います。

ありがとうございました。